

道博協ニュース

第55号

発行 平成8年(1996)6月25日
発行所 北海道博物館協会
事務局 札幌市厚別区厚別町小野幌
北海道開拓記念館内
電話 011-898-0456
FAX 011-898-2657

'96道博協厚岸大会テーマ

「地域の自然と文化財を生かした 博物館活動」など決まる

平成八年度第一回役員会

平成八年度の第一回役員会が去る五月三〇日、札幌市雪印パーラーで開催されました。当日は会長以下、十九名の役員、事務局員の参集のもとに、以下の議題について、佐藤一夫副会長(苫小牧市博物館長)が議長となり、午後一時から五時まで、熱心な討議が続けられました。

まず、第一号議案として、「経過報告」(本誌八頁、事務局日誌)が事務局長からなされ、第二号議案として、「平成七年度事業報告」および決算報告が確定したのに伴ない意見が交されました。

第三号議案は、「道博協基本問題検討委員会報告」にもとづいて、できる限り、新年度事業に、当報告の意見を生かそうとの趣旨のもとに、様々



な意見が交されました。その結果、当委員会から強く要望された「研修体制の強化」のなかで、博物館・園等の館長、事務局長、事務系職員の研修を中心とした「北海道博物館協会博物館マネージメント研修会」(仮称)を新たに協会事業として起こすこととし、新年

度に旭川市を会場として実施すること、具体案の検討が事務局に託されました。

もう一つは、役員役割分担制について検討されました。

これは、道博協の全事業を、
◎財政、◎事業、◎広報、◎
◎専門部会(学芸員・
動水協・美術館)、◎地域プロ
ック、◎長期計画などに分割し、理事の担当とし、長期的に展望をもって検討していくとするものです。ただ、今回の役員会では、具体的な分担制をとるまでにはいたらず、当面、必要分野を先行させて、引き続き検討していくこととなりました。

第四号議案の「平成八年度事業計画および会計収支予算(案)について」では、さきの第三号議案に伴う、若干の変更をおこない、厚岸大会で承認を求めることになりました。

第五号議案の「第35回北海道博物館大会」(厚岸町)については、開催要領にもとづき、テーマ以下、慎重に検討されました。詳細は本誌二頁掲載のとおりです。

第六号議案「その他」では、五月二十九日まで提出されている平成八年度の道博協表彰の応募状況についての中間報告などがありました。

最後に、城戸崎会長から、

今後道博協に対してより一層の支援を寄せられるようにとの言葉を結びとして、本年度第一回役員会が無事終了いたしました。

(事務局長 野村 崇)

計報 澤 四郎氏



当協会
前副会長
であった
澤四郎氏
は、去る
四月二〇

日午前二時十分、急性心筋こうそくのため市立釧路病院で急逝された。六〇歳。同氏は昭和十年、栃木県那須町で生まれ、昭和三十三年、国学院大学を卒業後、昭和三五年から釧路市立郷土博物館に勤務。昭和五六年から同館長。五一年から平成四年まで、当協会理事、副会長を務められた。

第35回北海道博物館協会

大会開催要領

第三十五回北海道博物館大

会ならびに平成八年度北海道

博物館協会総会は、北海道東

部の厚岸町で開催します。開

催内容が次のように決まりま

した。多くの皆様の参加を期

待しています。

会期 平成八年七月四日(木)・

五日(金)

会場 厚岸郡厚岸町梅香町二

丁目、厚岸町社会福祉

センター



厚岸町海事記念館

シンポジウムテーマ 「地域
の自然と文化財を生かした博
物館活動」
司会者 夕張市石炭博物館
長青木隆夫氏

報告者 ① 釧路市立博物館
学芸専門員 新庄久志氏

報告者 ② 根室市博物館開
設準備室 学芸員 川上淳氏

報告者 ③ 標津町ポー川史
跡自然公園 副園長 梶田光
明氏

報告者 ④ 厚岸水鳥観察館
専門員 澁谷辰生氏

閉会式
主催者謝辞(北海道博物館協
会会長) 次期大会開催地挨拶
厚岸町内史跡・施設等視察見
学

① 厚岸町海事記念館

② 厚岸町郷土館

③ 国泰寺

④ 正行寺

⑤ 太田屯田開拓記念館

⑥ 厚岸水鳥観察館

参加料
(1) 大会参加費会員二、五〇
〇円(非会員三、〇〇〇円)

(2) 懇親会参加費四、五〇〇
円(会場：コンキリエ)



町内ホテル等参加者各自申し
込みとする。

大会申し込み及び総会委任状、
配布資料の提出

(1) 大会参加申し込みは、別
紙申込書で六月十五日(出ま
で)にご送付下さい。

(2) 総会に出席できない会員
は、別紙委任状を六月十五
日までにご送付下さい。

大会時にパンフレット等
資料を配布希望する館園は、
二〇〇部(若干の増減可)

を六月末日までにご送付下
さい。

事務局
〒〇〇四 札幌市厚別区厚別

町小野幌 北海道開拓記念館
気付
北海道博物館協会事務局
TEL: 〇一一八九八一〇
四五六

●おねがい

本総会の「道博協基本問題
検討委員会報告」では、会員
の皆様から御意見をいただき
ますので、今回、本誌と同送し
ました「北海道博物館協会基
本問題検討委員会報告書」は、
かならず御持参ねがいます。

役員の交代

四月一日付の人事異動等で
当協会役員のうち、次の方々
が新たに役員に就任されまし
た。任期は次大会までとなり
ます。

副会長 長谷川吉廣氏(道

立近代美術館副館長)、石黒靖

敏氏(釧路市立博物館館長)

長尾章郎氏(札幌市円山動物
園園長)

理事 村田 博氏(帯広百

年記念館館長)、矢野義和氏

(札幌市青少年科学館館長)、

野村 崇氏(北海道開拓記念
館学芸部長)

道南ブロック博物館施設等

連絡協議会の動向

市立函館博物館 学芸係長 長谷部 一弘

年度も押し迫る平成八年三月二十九日、市立函館博物館において平成七年度「道南ブロック博物館施設等連絡協議会」総会が開催された。

総会には、渡島・檜山地方の博物館活動に関わる一四市町村の関係施設等一七機関が参集し、研修会を含め役員選出および事業・決算・監査報告、新年度事業計画・予算案等々が協議決定された。

特に今回の総会では、「道南ブロックの進め方」について討議の場を設け協議会そのものの在り方について意見の交換がなされた。それは、かねてから会員はもとより非会員の博物館関係者より協議会そのものの組織の実態と性格について多々疑問の声が聞かれ、事実協議会運営およびブロック博物館活動もままならない状況にあった。このような現状の中で改めて渡島・檜山地方の全博物館関係機関に参集

していただき、協議会発足からこれまでに至る経過の周知の中で存続を含めた協議会の在り方を討議する機会を必然的に設けることとなった。

周知のとおり道南ブロック博物館施設等連絡協議会は、成三年十一月、北海道博物館協会と北海道開拓記念館の働きかけにより「北海道博物館活動交流推進会議・道南学芸員会議」が開催され、渡島・



檜山地域における博物館事業の振興発展を図るために相互交流による道南地域の博物館ネットワークづくりが提案された。その結果渡島地域・市立函館、檜山地域・江差町教育委員会が窓口となって発足した。また発足にあたり協議会の事業展開等については、向う五年間北海道博物館活動交流推進会議の主導的協力を得るかたちで協議会を進めていき、以後協議会が実質的に独立運営する考え方で今日に至っている。

今回のこのような緊急ともいえる協議会事務局の動議は、これまで協議会の位置づけ等会員の多くがその在り方を含め実態が掌握されないままに今日におよんでいることを率直に受け止め、協議会が真に目指すものを原点にかえて討議していただくものであった。討議の中で、特に協議会の運営組織体の位置づけについては、その指導的立場にある北海道博物館協会が明確にすべきであることや活動面において道博協の下部組織に位置づけるべき等々の意見が出された。また、その機能的役割として町村における学芸員



不在の社会教育施設にその必要性と採用の推進、博物館施設を有しない自治体への支援的役割の必要性が討議された。

事業展開の在り方については、各博物館施設にとって即効性のある企画にたち学芸員の技芸におよぶ研修の場と博物館活動における人材バンク登録、各分野における共同調査研究の必要性等が指摘され、当面の具体的方策として渡島・檜山地域の博物館等生涯学習施設マップの作成等が提案された。

このような協議会そのものの存在に関わる関係機関の卒直な意見は、協議会そのものの必要性を認めながらも各博物館施設にとって博物館活動

の具体的方向性の不明確さが浮き彫りにされた感があるが、多くの課題を抱えながらも今後文字通り北海道全域の博物館活動の一翼を担う道南ブロック連絡協議会として独自の運営・事業展開を繰り広げていく中で、協議会そのものが地域に根ざした博物館活動の中核をなすものであれば北海道全域におけるブロック連絡協議会の確たる組織体制づくりとそのための他地域の協議会の状況把握・情報交換等の連携も必要となってくることは言うまでもない。

近年、道南地域においても北海道の他地域同様複合体施設建設を含め地域に根ざした博物館づくりが推し進められており、平成七年四月には假法華村灯台ファミリー博物館「ピカリン館」がオープンしている。とりもなおさず、今後ピカリン館をはじめ新たに誕生する博物館施設も道南の新しい博物館連合体の一員の中で道南地方の地域的特性を活かしながらその果たすべき役割を道南ブロック博物館施設等連絡協議会の共有財産として活用していきたいものである。

ホークス・ベイ博物館の印象

苦小牧市博物館 館長 佐藤 一夫

苦小牧市は一九八〇(昭和五五)年に、「紙」と「港」の関係からニュージーランドのネーピア市と国際姉妹都市の盟約を結び、経済、文化、スポーツなどの幅広い交流が続いている。苦小牧市博物館もその一翼を担い、ネーピア市にあるホークス・ベイ博物館と交流を行い、一九九三(平成五)年には、ホークス・ベイ博物館が所蔵するマオリ族関係のコレクションの逸品二二〇点を借り受け、二月二十八日から三月二十五日までの一ヶ月間、国際先住民年記念等の



銘を打ち、「ニュージーランド先住民の文化・マオリ文化展」を開催し、多くの市民や関係者から好評を博した。今回の訪問は、ネーピア市との姉妹都市盟約十五周年を記念して、苦小牧市、苦小牧N・Z協会、経済界、音楽関係者等が大同団結し、市民親善訪問団を組織、両市の市民レベルによる交流を深めることを目的としたもので、博物館も「マオリ文化展」の返礼として、当館の所蔵する資料の中から考古・民族・歴史関係資料八七点を「二つの島のかけはし・苦小牧市博物館秘蔵品展」として三月二十六日から四月二十八日までホークス・ベイ博物館で開催し、そのオープニングセレモニーに出席するための参加であった。

ネーピア市は、ニュージーランド北島の東海岸、ホークス・ベイ湾に面した人口五万人ほどの地方都市で、一八五六(安政三)年にヨーロッパやオーストラリアからの移住者たちによって拓かれた。一九三二(昭和六)年に大地震

によって壊滅的な被害を被ったが、その後、当時流行していたアー・テコ様式を取り入れられた計画的な街づくりが行われ再建された。ネーピア市の位置するホークス・ベイは地中海性気候のため日照時間が長く、温暖な地域のためニュージーランド有数のワインの産地として有名であるが、今日では、明るい日差しがよく似合う、美しいアー・テコの街として世界的に知られている。

ホークス・ベイ・カルチニャル・トラストの運営になるホークス・ベイ博物館は、広々とした美しい海岸線に沿ったメイン・ストリート、マリン・パレードのほぼ中央に位置している。バイン・ツリーの並木に面した博物館前庭には、トラストの運営する劇場、映画館、美術館、博物館などのテーマが象徴的な円筒状のモニュメントに表示され、この施設がホークス・ベイ地方の一大文化拠点であることを示している。

博物館の歴史は古く、一八六五(慶応元)年、ネーピアの手工業者たちの組織によって建設された。その後ネーピア市の学芸倶楽部となっていたが、一九三一年の大地震によって焼失した。一九三六(昭和十一年)年、ホークス・ベイ美術館・博物館として再建されたが、今は分離独立し、博物館のみとなっている。この間に施設とコレクションは順調にその数を増し、東海岸起源で非常に独自性の強いマオリの考古・美術工芸資料を中心に、ヨーロッパからの移住者たちがもたらした陶磁器、銀製器、ガラス、宝石、家具類やアー・テコ、現代陶磁器、絵画、さらにアラスカのイヌイット・アメリカ・インディアン・太平洋地域の先住民の民族資料、日本の浮世絵・印籠、根付けなど、非常に変化に富んだ資料を収集・所蔵している。そのためニュージーランド国内の地方博物館としては、最大規模の内容を誇り、その活動が注目されている。

三月二十五日に行われた「二つの島のかけはし・苦小牧市博物館秘蔵品展」の開会式は、両市の市長夫婦をはじめ、トラスト関係者、市民親善訪問団など二〇〇名余りが参加し、マオリの長老が進行するオリ流の厳かなものであった。式典終了後は、会場内の各ケースに入垣ができ、苦小牧からの考古・民族資料を中心に文化交流の輪が広がっていた。



翌日は、ホークス・ベイ博物館の案内で、ネーピア市郊外にあるマオリの遺跡、オクタラ・パーを終日見学し、博物館職員、文化財関係者、マオリの関係者と有意義な一日を過ごすことができた。四日間のネーピア市滞在を終え、ネーピアからバスでオークランドに向かったが、途中、間欠泉で有名なロトルアに一泊し、三月二十八日、オークランドに入った。オークランドでは、市民親善訪問団一行が市内観光をしている間、別行動をとり、オークランド協会博物館を見学、マオリの考古資料や彫刻、絶滅鳥モアの剥製など、今まで写真図版でしか見たことのない現物を見、改めて、長い白い雲のたなびく国、ニュージーランドの素晴らしさに感嘆し、帰国の途についた。

三年前、学芸員としてはじめての夏、自然観察会の講師の依頼がたて込んで、私は身動きがとれなくなりました。最初の年だから、依頼を断りたくなかったし、実際どれくらい忙しくなるのか、ということも知らなかったのだ。毎週講演や観察会の予定があるのは普通で、一日おきということもあった。観察会は下見を行うので、そうなる物理的に身動きがとれなくなってしまうことがわかった。

一年勤める内に、この忙しさの原因が見えてきた。まず何といても観察会ができる人材がほとんど見あたらないということだった。十勝には昔は動植物が好きな人達が多かったようで、百年記念館の植物標本などにその跡を見ることが出来る。しかしその下の世代がおらず、ずっと年下の私がいる。当然若い奴の方が仕事を頼みやすいだろうし、学芸員という肩書きがそれに拍車をかける。

また、一般的におこなわれていた観察会の質にも問題があった。動植物の種名を開き、そのエピソードを聞いて楽しむのが自然観察会だという認識、これは大きな問題である。学芸員が先生で参加者が生徒という関係では、参加者はいつまでも先生についていきま

す、という気分から脱皮できず、結局先生がいなければ森を歩けません、という認識が

あつた。私は、参加者が、種名のよむの個別の知識にとらわれず、生き物のつながり、時間の流れ、発見の仕方などを自覚でみるような観察会を目指した。たぐさんの種類を見よう、という雰囲気は排除し、全員が見られないもの、判断の難しいものにこだわる、などのこ

く、受講そのものが目的になつてしまふ。そして養成した人の世話に追われてしまふこともある。だから地域には自立した集団が複数必要なのだ。私はボランティアとしても、個々が自立した「かんさつ会」の姿を追及した。知識がなくても見れば自然の成り立ちがわかるものは山

自然史系学芸員の現場から⑨

『自然かんさつ会』

帯広百年記念館 池田亨嘉

育つてしまふ。これでは私が加率的に忙しくなるだけである。卒業しない生徒をどんどん増やしているだけだからだ。

博物館だから、地域の調査研究をわりやすく紹介するといふ建て前である。しかし、いわゆる底辺の部分もやらなければ、自然系の分野ではこの地域は成長しないだろうと

とはしない。私は「細かいことはどうでもいいです」「見えにくいものは見てもしょうがないませぬ」とはつきりと言

う。ただし逆に窮屈にならないように、種名は言うし、知識欲にもそこそこつきあつてはいる。

よく行われている、養成講座のようなものは、多くの場合自分が行動することではな



かんさつ会は、特にかわつた工夫はしない。ただし「あつ！」という発見の声だけは聞きのがさない。学芸員はヒトをかかさつする。

— 新館・園紹介 —

月形樺戸博物館

月形樺戸博物館は、明治四年に開監し大正八年に廃監した樺戸集治監のあゆみについて展示しています。この月形の地で集治監がどのような役割を持っていたのかということも学んでもらう施設としてあります。

樺戸集治監の概要

なぜ月形の地に集治監が出来たのかということですが、これは明治維新期の自由民権運動で政治犯罪の増加と重罪



人の収監が、当時の東京と宮城の集治監では間に合わなくなったのが第一の理由です。このため明治一三年伊藤博文内務卿より北海道の地を選定するよう命ぜられ、内務省御用掛だった月形潔ほか七名が調査に入ったのです。当時月形はアイヌ語でスベツトと呼ばれ、密林地帯で石狩川の水運が利用できるこの地に決められました。明治一四年九月、全国で三番目の集治監として開庁し、月形潔が初代典獄（現在の刑務所所長）となりました。この人物の姓をとって月形村と名付けられたのです。当初囚人は外役として農地開墾を主としていました。その後北海道の開拓の基礎となる道路の開さくや屯田兵屋建設といった過酷な作業を強いられました。内役としては、自給自足の生活が出来るように農作業や工場作業が行

われたのです。明治一九年に

は、道内最古とも言われる木管を用いた水道施設も囚人によって集治監や市街地まで通されました。集治監には有名な人物も関係しています。新撰組の永倉新八は、剣術師範として三年間樺戸に滞在していました。そして大正八年、集治監はその役割を終え三九年のあゆみに幕を降ろすのです。

常設展示の総数は六六二点のうち実物五六七点、複製二八二点、写真六二点、シオラマ五点で、博物館は三館で構成されています。

旧樺戸集治監本庁舎

博物館の入口です。面積四七・二九平方メートル、木造平屋建て。この建物は明治一九年に集治監本庁舎として再建され、廃監後は役場庁舎として昭和四七年まで使われ、その後昨年まで北海道行刑資料館として公開されています。本年四月から博物館の一部として展示内容も一新し新たなスタートを切りました。

当時の典獄室や副典獄室を再現し、一五〇分の一のスケールで集治監全体をシオラマで展示しています。博物館本館へは、地下通路を通過して行きます。



通って行きます。

農業研修館

面積五三八・二五平方メートル二階建て。一階では農耕馬の剥製や昔の農具を展示し、農業の移り変わりを再現。二階では近代農業について展示しています。

（野本 和宏 月形樺戸博物館学芸員）

月形樺戸博物館案内

開館時間 午前九時三〇分

午後四時三〇分

休館日 月曜日 祝日の翌日

（但し土曜日・日曜日の場合開館）

一二月三十一日～一月五日

入館料 小中学生一〇〇円

（五〇円） 高校大学生一五〇円

（一〇〇円） 上記以外一五

歳以上三〇〇円（二五〇円）

（ ）は団体（二〇名以上）

交通 札幌からJR学園都市

線月形駅下車徒歩五分

国道二七五号線五〇km

問い合わせ先 月形樺戸博物

館 北海道樺戸郡月形町一二

一九番地

TEL・FAX 〇一二六

一五三一―三三九九

面積九八六・九平方メートル鉄骨二階建て。一階は集治監のあゆみや監獄で働く人々の様子を実物資料により展示解説しています。二階では囚人の製作した生活用品のほか、レンガや木管など（治水コーナー）を展示。さらに映像シアターではCDグラフィックとシオラマを組み合わせて、集治監と月形村」をドラマチックに演出しています。博物館の農業研修館へは渡り廊下を

— 新館・園紹介 —

小樽交通記念館

小樽市手宮は一八八〇(明治一三)年に北海道最初の鉄道、幌内鉄道の起点であった記念すべき地です。この手宮に一九六三(昭和三八)年に当時の国鉄が設置したのが北海道鉄道記念館で、これを整備拡充して北海道における陸と海の交通史を総合的に展示するため、小樽市が事業主体となって建設したのが小樽交通記念館で、その運営は小樽市が五一%出資した小樽交通記念館が行っています。

敷地面積は旧手宮駅の構内を整備した五・八haで、メインの施設の中央展示館は延面積四、一四〇㎡でその他新築六棟、改築三棟、合計十棟の建物があります。

第一展示室

第一展示室では北海道で最初の蒸気機関車「義経号」、「弁慶号」と同形の「しづか号」と北海道で最初につくられた一等客車「い1号」が展示さ

ています。しづか号は一時間一回ターンテーブルで回転し音と光による演出がお客様の眼を楽しませています。

第二展示室

ここでは北海道最初の鉄道、幌内鉄道の建設から、国鉄分割までの鉄道史を紹介してい

ます。主な展示物としては、手宮高架橋(一・八〇)、明治二〇年代の北海道炭礦鉄道時代の手宮駅構内(一・七〇)、北海道の代表的な蒸気機関車十両(一・四五)、除雪編成「キマロキ」(一・一一)などの可動模型、建設工事の様子を再現したジオラマなどがあり、いずれも映像やナレーションを使ってできるだけわかりやすい展示を心がけています。

第三展示室

二階は鉄道以外の陸と海の交通史で、海の交通史としては北前船をはじめ、北海道の海上輸送に活躍した船を主に模型で展示しています。また、埋め立て式運河として珍しい存在である小樽運河の変遷や小樽付近の実写映像で三コーラスが楽しめる操船シミュレーションもあります。

陸上交通では人力車、人力車やオートバイ、現存最古のオート三輪車、ダットサン、ヒルマンミンスクなどの乗用車が展示されている他、ル・マン優勝車や未来の自動車、水素カーもありました。また車の運転シミュレーションでは高速道路の走行が体験でき、

特に人気があります。

蒸気機関車資料館

今では失われつつある蒸気機関車の部品、工具、ゲージ類を一堂に集めた資料館で、その量と大きさは圧倒的な迫力で見るとに迫ります。

鉄道車輛保存館

鉄道記念館になっている旧手宮機関庫三号庫、一号庫のなかに、現存最古の国産蒸気機関車大勝号、レールバス、日本で最初のロータリ車、マックレー車など七両が展示されています。なかでも日本で最初の雪かき車の厚寸復元模型はそのユニークな形が目を引いています。

野外展示

敷地内には機関車やディーゼルカー、客貨車が展示され、内部を開放して休憩室などにご利用いただけるほか、救援車や郵便荷物車、車掌車では復元展示もしています。

動態展示

「義経号」「しづか号」などが生まれたアメリカ、ポーター社で一九〇九(明治四二)年に製造された「アイアンホース」が敷地内で客車を引いて走ります。

ラジコンカーやラジコン船の操縦体験や各種イベントの開催を通じて、ご家族みんなで楽しんでいただける記念館をめざしています。
(小樽交通記念館 展示チーフ 渡辺真吾)

小樽交通記念館案内

開館時間 午前九時から午後六時まで(冬期は午後五時まで)

休館日 四月十日から十一月三日まで無休 十一月三日から四月九日まで毎週月曜日・年末年始(十二月二十九日から一月三日まで)

入館料 一般九二〇円(七四〇円) 小中学生四六〇円(三七〇円) ()は二〇名様以上の団体

交通 小樽駅前バス停(樽石ビルの前)より中央バス「手宮」または「高島三丁目」行手宮下車 小樽駅前バスターミナルより「小樽マリン号」交通記念館前下車

問い合わせ先 小樽交通記念館 千〇四七 小樽市手宮一三一六

TEL 〇一三四—三三—二五二三 FAX 〇一三四—三三—二六七八



館・園のおもな事業

六月末〜九月

水質調査

●有島記念館

6・9〜7・18 「有島武郎

の書と絵画」特別展 7・

31〜9・13 「有島武郎青少

年公募絵画展」

●木田金次郎美術館

7・7〜10・6 「木田金次

郎の視線―2、不滅の波」

7・13 「講演会・木田金次

郎生誕祭」

●小樽水族館公社

7・28、8・4、9・22、

23 「魚拓実演会」、良い子の

動物画作品募集」(7・21

〜8・19) 上記入選作品展、

9・23〜10・10

●小樽市博物館

7・27 「昆虫標本の作り方」

8・4、9・8 「昆虫観察

会1・2」 10・10 「きの

こ展」 9・22 「丸山の自

然(2)」 6・22 「考古学講

座・遺跡見学」 「北海道近代

史講座」 7・21 「石炭と

小樽)

●当別伊達記念館

8・1〜11・31 特別展「殿

様の石狩川廻行記」展

●円山動物園

7・1〜31 「動物愛護標語

及び「幼児・児童動物画コ

ンクール」募集 8・3、

4日「夏のことどもカーニバ

ル」 9・15 「長年飼育動

物メニュー」 9・20 「動

物慰霊祭」

●道立三岸好太郎美術館

6・8〜7・28 「三岸好太

郎と三岸節子の「花」展

8・1〜9・29 「三岸好太

郎の世界 色彩の詩情」展

●札幌市資料館

6・29〜7・7 「戦前の住

宅地図と写真展」

●江別市陶芸の里セラミック

アートセンター

7・6〜8・25 「瀬戸・美

濃の近現代陶芸―創作陶芸

への道―」展 9・7〜22

陶&くらしのデザイン展」

●札幌市青少年科学館

6・27、28 「女性科学講

座、7・24〜8・18 「夏休

み特別展、ガメラ・ワール

ド」 7・26、28 「夏休み

科学館」 8・6〜11、18

「夏休み工作会」同7〜9

「紙飛行機大会」 9・15、

28 「みんなの実験広場」他

●北海道立文学館

企画展「北海道の俳句」

5・24〜6・30

●道立近代美術館

6・21〜7・28 「近代ヨ

ロッパ絵画の巨匠たち」

8・17〜9・22 「秀吉と桃

山文化」

●北海道開拓記念館

〔特別展〕6・1〜7・28

「山丹交易と蝦夷錦」〔テ

ーマ展〕8・21〜9・8 「会

津殖民組合の北海道開拓」

9・15〜10・6 「W・カー

チス・コレクション」展

8・18〔講座〕「みんなで学

ぼうアイヌ文化」 8・25

〔講演会〕「海獣狩猟とサケ

漁」

●札幌市豊平川さけ科学館

6・30 「体験釣り実習」

7・7 「琴似発寒川さかな

ウォッチング」 7・20 「豊

平川さかなウォッチング」

●美唄市郷土史料館

8・11〜9・29 「あの日・

あの時・あの映画特別展」

8・11 「ペットホテルロケ

ットづくり」

事務局日誌

(平成8年3月22日〜6月15日)

4・1〜5・1 新入会員、

ところ遺跡の館、増毛町総

合交流促進施設元陣屋、上

湧別ふるさと館JRY、斉

藤陽一氏、藤田昇治氏、榎法

華村灯台ファミリー博物館

4・12 平成八年度道博協表

彰、故石川政治氏

4・18 小樽交通記念館開館

会長より祝電

4・20 元道博協副会長、澤

四郎氏逝去・弔電

4・21 道南ブロック協議会、

動水協北海道ブロックから

事業報告書送付

4・22 日博協平成七年度補

助金、還付金交付

5・11〜18 第35回道博協大

会関係資料送付

5・18 穂別町化石サミット

後援

5・30 平成八年度第一回役

員会(札幌)

5・30、31 道北地区博物館

等連絡協議会総会(名寄市

北国博物館)